

2019年度 省農薬あきさかり(認証③)栽培ごよみ【移植】



JA 越前たけふ
丹南農林総合事務所
越前市南越前町特別栽培
農産物生産者協議会

月旬別	平成30年		2019年																																
	10月	10月~12月の期間中 2ヶ月以上	4月			5月			6月			7月			8月			9月																	
			上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬															
時期	土づくり	農閑期	育苗期			田植期、活着期			有効分げつ期			無効分げつ期			幼穂形成期			出穂期			登熟期			収穫期											
水管理	秋の田起こし 稲わらの踏み込み 作土深15cm以上 稲わらの踏み込み 土づくり	湛水管理	荒おこし			代掻き 田植え			除草剤散布 徐々に湛水 10cm程度の深水管理			中干し 中干し延期			幼穂形成期から間断通水 徐々に地固め			現地検査			現地検査														
管理作業の要点	スタートは土づくりから 来年度へ向けて土づくり ケイカル500kg/10aもしくは しきぶホワイト100kg/10a散布	表示板の設置 種子の温湯消毒後 直ちに浸種 (JAへ必要量を注文) 種子温湯消毒 来年度へ向けて土づくり ケイカル500kg/10aもしくは しきぶホワイト100kg/10a散布	育苗 表示板の設置 種子の温湯消毒後直ちに浸種 (JAへ必要量を注文) 種子温湯消毒 播種時に化学肥料入り 床土、ダコニールや 苗箱薬剤を使用しない!			田植え同時もしくは ノビエ 2.5葉期までに 除草剤ゴエモン 粒剤を散布			田植後は浅水管理で分 げつ促進。水稻の生育 に合わせて除草対策の ため深水管理			田植後1ヶ月後に軽く田干し 最高分げつ期 茎数が25本/株あれば十分			7月10日頃に中干し 幼穂形成期の確認 (通常は2mm) 強めの田干しは厳禁			穂肥の施用 有機肥料のため、 効果が出るまで約1週間かかる			足跡に水が残る 程度維持			適期刈取 青刈割合10~15% 籾水分 20~25%											
肥料	主な施肥体系 (10aあたり)		① 化学合成農薬の使用を低減する技術 (温湯消毒済み種子を使用)			② 土づくりに関する技術 (堆肥等有機質資材施用技術)			③ 化学肥料の使用を低減する技術 (有機質肥料施用技術)			除草剤 ゴエモン1 [※] 粒剤散布、効果持続			1回目の穂肥 (幼穂形成期 出穂30日前)			2回目の穂肥 (1回目の7日後 幼穂長2mm)			間断通水をしながらも徐々に地面を硬くする			畦畔と圃場内の除草徹底			1.9mm以上網目で選別 籾水分2.5%以下で収穫 山間地 9月25日頃 平地地 9月20日頃			選別網、流量を適正に			肥料窒素量合計 (ケイフン・床土を除く) 7.1~7.8kg 内化学肥料窒素 不使用		
農薬	農薬の使用回数 指定除草剤1回のみ		① 化学合成農薬の使用を低減する技術 (温湯消毒済み種子を使用)			② 土づくりに関する技術 (堆肥等有機質資材施用技術)			③ 化学肥料の使用を低減する技術 (有機質肥料施用技術)			除草剤 ゴエモン1 [※] 粒剤散布、効果持続			1回目の穂肥 (幼穂形成期 出穂30日前)			2回目の穂肥 (1回目の7日後 幼穂長2mm)			間断通水をしながらも徐々に地面を硬くする			畦畔と圃場内の除草徹底			1.9mm以上網目で選別 籾水分2.5%以下で収穫 山間地 9月25日頃 平地地 9月20日頃			選別網、流量を適正に			肥料窒素量合計 (ケイフン・床土を除く) 7.1~7.8kg 内化学肥料窒素 不使用		
肥料	主な施肥体系 (10aあたり)		① 化学合成農薬の使用を低減する技術 (温湯消毒済み種子を使用)			② 土づくりに関する技術 (堆肥等有機質資材施用技術)			③ 化学肥料の使用を低減する技術 (有機質肥料施用技術)			除草剤 ゴエモン1 [※] 粒剤散布、効果持続			1回目の穂肥 (幼穂形成期 出穂30日前)			2回目の穂肥 (1回目の7日後 幼穂長2mm)			間断通水をしながらも徐々に地面を硬くする			畦畔と圃場内の除草徹底			1.9mm以上網目で選別 籾水分2.5%以下で収穫 山間地 9月25日頃 平地地 9月20日頃			選別網、流量を適正に			肥料窒素量合計 (ケイフン・床土を除く) 7.1~7.8kg 内化学肥料窒素 不使用		
農薬	農薬の使用回数 指定除草剤1回のみ		① 化学合成農薬の使用を低減する技術 (温湯消毒済み種子を使用)			② 土づくりに関する技術 (堆肥等有機質資材施用技術)			③ 化学肥料の使用を低減する技術 (有機質肥料施用技術)			除草剤 ゴエモン1 [※] 粒剤散布、効果持続			1回目の穂肥 (幼穂形成期 出穂30日前)			2回目の穂肥 (1回目の7日後 幼穂長2mm)			間断通水をしながらも徐々に地面を硬くする			畦畔と圃場内の除草徹底			1.9mm以上網目で選別 籾水分2.5%以下で収穫 山間地 9月25日頃 平地地 9月20日頃			選別網、流量を適正に			肥料窒素量合計 (ケイフン・床土を除く) 7.1~7.8kg 内化学肥料窒素 不使用		